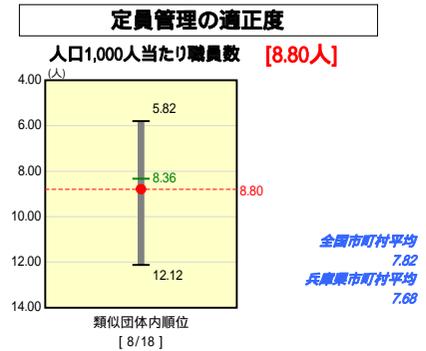
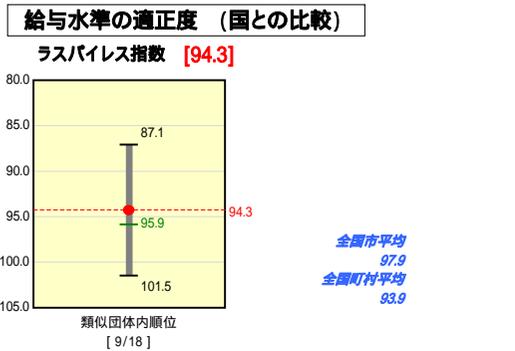
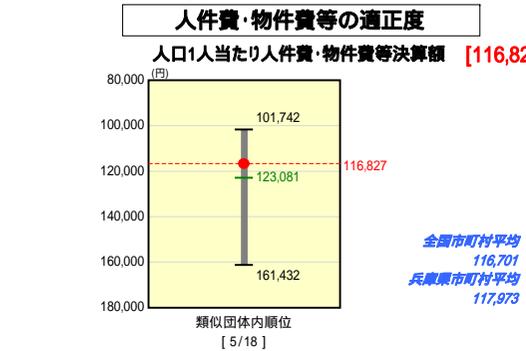
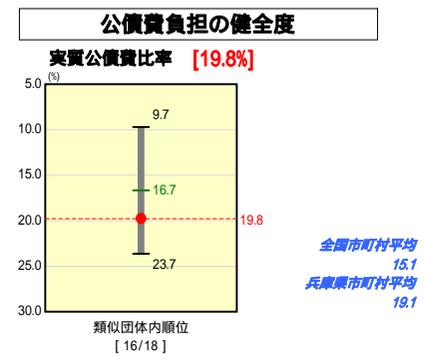
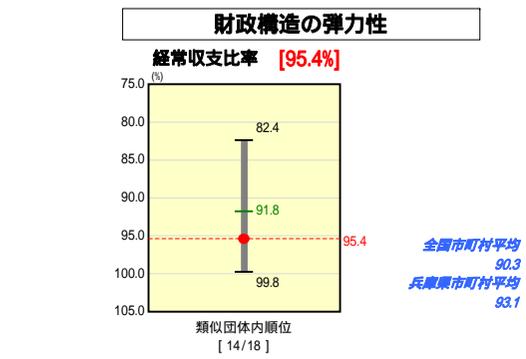
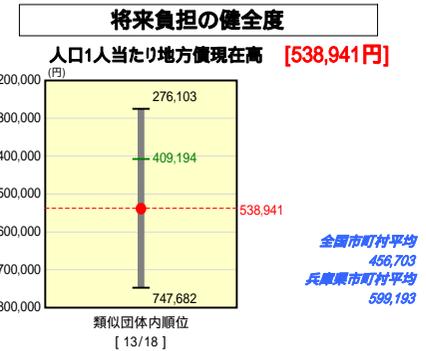
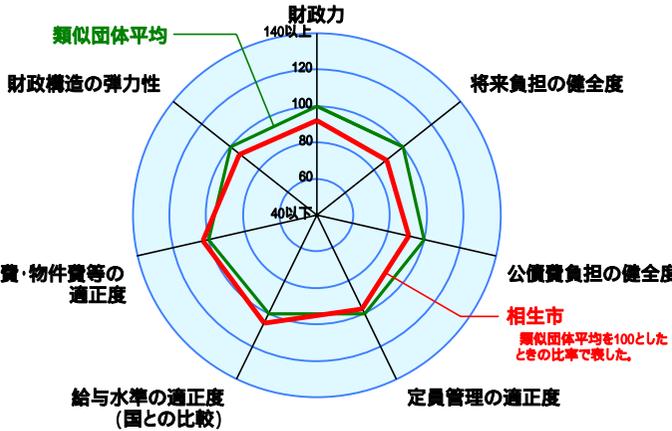
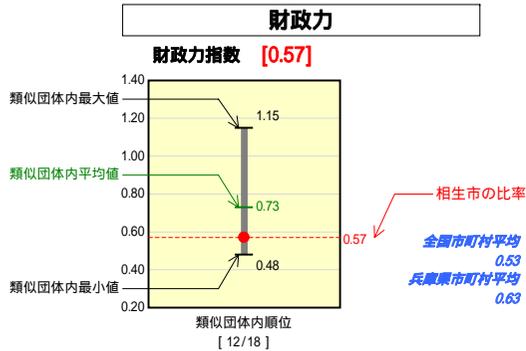


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

兵庫県 相生市

人口	32,482	人(H19.3.31現在)
面積	90.45	km ²
歳入総額	13,552,423	千円
歳出総額	13,258,601	千円
実質収支	282,812	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数
4年連続して改善したものの、類似団体平均を大幅に下回っている。このため、平成18年度から5ヵ年の「相生市行政健全化計画」に基づき歳出削減(H17年度当初予算比20%削減)に取り組むとともに、課税徴収の適正化に向け、新たに「徴収対策室」を設置し、積極的な歳入確保に努めている。

経常収支比率
対前年度比5.5ポイント増と大幅に悪化した。市債の償還の増加(対前年度比5.3%増)などに加え、普通交付税(対前年度比8.1%減)などの歳入の減少によるものである。今後、「相生市行政健全化計画」に基づき歳出削減に取り組むとともに、市債の繰上償還を進めるなど、財政健全化に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
類似団体平均に比べると若干少ない額で、概ね適正であるといえるが、依然として人口は減少傾向にあることに加え、今後、各種施設の老朽化による維持補修経費の増加も予測されるため、引き続き人件費、物件費等の削減に努める。

人口一人当たり地方債現在高
過去の大規模事業に伴い多額の市債を借り入れてきたことから、類似団体平均に比べ多くなっている。市債の新規発行を抑制(対前年度比30.4%減)し、現在高の抑制に努めているところであるが、今後も投資的経費の削減(H18から5年間

で56.7%削減を目標)を進め、市債の新規発行を抑制するとともに、繰上償還を積極的に行い、適正化を図る。

実質公債費比率
土地区画整理事業や公共下水道事業などの都市基盤整備に伴い借り入れた市債の償還が多額であり、指致悪化の原因となっている。平成20年度に市債の償還のピークを迎えることにより、実質公債費比率は平成21年度以降、徐々に改善する見込みで、平成24年度には市債の発行が協議制になる基準である18%未満になると見込んでいる。

人口1,000人当たり職員数
退職者補充の抑制等により対前年度比0.32人減少しているものの、全国市町村平均・類似団体平均よりも高い値を示している。「相生市行政健全化計画」に基づき、引き続き、人員の削減に取り組むこととしており、第3次定員適正化計画(H18-22)において、アウトソーシングの推進などにより、5年間で41人(概ね12%)の職員削減を図る。

ラスパイレズ指数
経験年齢階層によって国平均より低い階層が多く、全国市平均・類似団体平均より低い値を示している。給与制度については、これまで国公準規を基本として適正な給与水準を維持してきており、今後も引き続き、給与の適正管理に努める。